



棒二森屋&市電

第226号



◇巻頭言◇

これからの夕陽会に思うこと

総務 酒井 充
(昭和46年卒)

私たちは、ともするとこれまでの卒業生のことをイメージして、卒業すればみんな教員になるので、その中で関係をつくっていいか、学生が思っていました。ですから、学生の皆さん全体に夕陽会というものを知ってもらうには、まだまだ時間がかかると思うんです。でも、これから社会へ出て、こんなことを同窓会に向けて発信したいと思ったとき、そういうアクセスのシステムは大切ですね。

(座談会『現役学生と夕陽会の未来を語る』「百年誌『夕陽が丘』より」と、繪面和子副会長は、今後の夕陽会の在り方を述べています。

本会は昨年、百周年を迎えました。が、これまでは教職に携わる同窓生を軸に事業を進めてきました。他方、母校の学科再編等に伴い、会の運営や組織の見直しも浮かび上がってきました。

一般に、組織を円滑に維持するためには、将来を見通し、組織運営を柔軟に改善していくことが大事だと言われています。このことは、今まさに本会が抱えている課題でもあります。先述したように、今後教職以外の同窓生がますます増えることは確実で、組織の見直しは避けて通ることはできない状況にきています。この危機を打開するために、将来同

窓会員となる在校生や教職以外の同窓生との連携を図る専門部を立ち上げることも必要でしょう。

専門部の主な業務として、以下のよう内容が考えられます。

①会報等に「母校コーナー」(仮称)を設け、母校や在校生の特色ある活動、並びに各種大会の様子等を同窓生へ積極的に発信します。

②在学生への支援等の考慮です。例えば「明日の教師養成塾」の公務員・民間企業版を開設し、多様な進路実現を支援します。また、各種大会や研究・発表会やイベント等への助成も検討します。

③本部および支部の総会・懇親会への地元経済界の人のお誘いや会の運営の見直しです。

これらの活動は、同窓生の多様な職種の参加意欲を促進させるだけでなく、会員の同窓会に対する所属意識をも高揚させると思っています。

このことは、会の目的である「会員相互の親睦」を深めることでもあり、新しい同窓会の未来を確かにすることであると信じています。

五月には、新元号がスタートします。夕陽会もこれまでの活動を基盤にして、会員相互の絆をさらに強くする新たな一歩を踏み出してもよいのではないのでしょうか。

栄誉に輝く同窓



○文部科学大臣表彰（教育者表彰）

多くの皆様に感謝

留寿都村 梶 本直樹
(昭和58年卒 留寿都村立留寿都中学校長)

この度、平成三十年度文部科学大臣表彰（教育者表彰）の栄に浴することとなりました。私のような者にとりまして、まさに身に余る光栄であり、大変恐縮しているところで、全道には、まだまだ輝かしい実績や功績を残された教育関係者の諸先輩が数多くいらつしやる中で、若輩の私が受賞させていただき、誠に申し訳なく感じております。

今回の受賞は、現在、北海道中学校長会の会長職にあることが考慮されたものであり、全道五百七十四名の中学校長の皆様に代表して受賞したものと考えております。今年度偶然の重なりからこのような大役に就

き、貴重な経験や多くの方々からたきさんの学びをいただくことができた幸運に心より感謝しております。幸いまだ退職までの期間があり、ますので、自校の教育活動や今後の役割の中で生かしていくことが恩返しと思っております。

受賞に際しまして、藤川会長様をはじめ、同窓の先輩や後輩の皆様方から心温まるお祝いの言葉をいただくことができたこともうれし、限りのご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶いたします。



○北海道教育功績者表彰

同窓の皆様に感謝して

函館市 片桐 由博
(昭和57年卒 函館市立柏野小学校長)

この度、平成三十年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなりました。本当に身に余る光栄です。素晴らしい功績を残された教育関係者の方々が、ほかにも多くいらつしやる中、私のような者が受賞してよいものか大変戸惑いを感じました。受賞に際しましては、藤川会長様をはじめ、同窓の皆様方から心温まるお祝いや励ましの言葉をいただき、ました。十二月の表彰式では、厳粛な雰囲気の中、北海道教育委員会教育

長佐藤嘉大様より表彰を賜りました。振り返りますと、後志管内で十二年、函館市で二十五年の教職生活すべてをの期間、困った時に近くで支えてくださったのは夕陽の先輩をはじめとする皆様方でした。今後ともそめとご厚情に因應するべく、精進してまいりたいと思っております。

結びになります、夕陽会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼の言葉とさせていただきます。



○文部科学大臣優秀教職員表彰

同窓の絆と支えに感謝して

函館市 佐々木 壮一
(平成8年卒 函館市立深堀中学校)

この度、平成三十年度文部科学大臣優秀教職員表彰の栄に浴することになり、一月十五日東京大学安田講堂にて厳粛な雰囲気の中、文部科学大臣柴山昌彦様より、表彰を賜り、ました。私のような浅学非才の者にとりまして身に余る光栄であります。これもひとえに、渡島教育局、函館市教育委員会をはじめ多くの先輩や同僚、とりわけ夕陽会の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

また、受賞に際しまして、藤川会長をはじめ、同窓の諸先輩や後輩の皆様方より心温まるお祝いのお言葉をいただきました。同窓の絆を深く感じ、万感胸に迫る思いでありました。私は、現在深堀中学校で八年間勤

務しております。明るく落ち着いた雰囲気の子どもたち、校長先生をはじめ活気溢れる仲間、困りま、恵まれた日々を送っております。また、美術教師として、所属の函館造形教育研究会では、三年後に全道大会を控え、運営準備に追われているところ、函館の造形教育を全道へ全国に発信していけたらと考えております。今回の受賞に満足せず、今後一層の精進を重ねて、函館の子どもたちのために力を尽くして参る所存です。

結び、夕陽会の今後益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶いたします。

受賞(章)おめでとーございます

- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲3/10)
小林 春茂 氏 昭29年卒
札幌市西区八軒八条東二丁目一の二三
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲8/1)
大野 悟 氏 昭26年卒
札幌市豊平区美園六条五丁目三の七〇五
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲10/1)
藤原 嘉明 氏 昭27年卒
美幌市西四条北三丁目二の二八
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲13/1)
青木 潔 氏 昭28年卒
函館市高丘町二八の二九
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲13/1)
辻 清 氏 昭30年卒
函館市湯川町二丁目二四の二三
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲13/1)
小林 春茂 氏 昭29年卒
札幌市西区八軒八条東二丁目一の二三
- *瑞宝双光章 (高齢者叙勲13/1)
小原 武直 氏 昭35年卒
新ひだか町静内中野町三丁目五二の二四
- *瑞宝中綬章 教育研究功労(11/3)
今井 憲一 氏 昭37年卒
函館市市道一の一七の九
- *函館市市民貢献賞・教育文化功労(8/1)
円山 博司 氏 昭29年卒
函館市花園町二の四二の九
- *函館市文化団体協議会 白鳳章(11/22)
大川 富美男 氏 昭45年卒
七飯町本町四の九の二八
- *函館市体育協会スポーツ功労賞(31/20)
網野 重治 氏 昭40年卒
函館市桔梗四の五の六
- *就任おめでとーございます
新篠津村教育長再任(11/28)
荒谷 順一郎 氏 昭55年卒



渡島支部だより

渡島支部長 幕田真二

(昭和56年卒 木古内町立木古内小学校長)

北海道新幹線が開業し三年となり、今年中には東京・新函館北斗駅間が四時間を切ろうとしています。

新幹線の発着駅のある渡島支部は、夕陽の強い絆のもと、毎年支部・支会事業を行っています。また、今年度は夕陽会創立百周年記念事業が行われ、渡島支部は記念祝賀会のお手伝いをさせていただきました。

【渡島支部事業】

例年、五月第二土曜日に『渡島支部総会、大懇親会・新会員歓迎会』を開催しています。

総会では「母校開学の精神を確かめ、夕陽会の原点である親睦の和を深めるとともに教育の振興に寄与する。」という運営方針のもと事業計画が承認されています。

その後の『大懇親会・新会員歓迎会』では、ご来賓、歴代支部長、終身会員の皆様にご臨席賜り、渡島支部会員の親睦を深めています。

祝宴の中では、新会員に自己紹介をしていただき、フレッシュな意気込みを聞かせていただいています。また、渡島支部ならではの「大抽選会」を行い、会場いっぱい笑顔がふれ、盛り上がりがあります。

会も終わりに近づくと、エール、寮歌の大合唱となります。会場が一体となり、渡島支部の強い絆を再認識する瞬間でもあります。

また、会報誌『夕陽渡島』を年三

号発行し、各支会の活動の様子や新会員・終身会員の声、三月には勇退される会員からの声を載せるなど、同窓意識の高揚に努めています。

さらに、二月第二土曜日には、渡島の教育はもとより、夕陽会を支え、育ててくださった方々に感謝する『勇退者激励・感謝の会』を盛大に行っています。勇退者への感謝の気持ちを込めた支会からの出し物は心温まるものです。

【支会事業】

渡島支部には、一市九町と渡島教育局五校支会の十一支会があります。各支会では、春から初夏にかけて、総会・懇親会が開催されています。

支部からも参加させていただいており、人数に差があっても、支会ならではの雰囲気の中、同窓の絆の強さを改めて感じることが出来ます。

また、昨年の夕陽会創立百周年記念事業、記念式典・祝賀会でたくさんの方に参加していただき、目標を達成できたことは、支部としても今後の大きな励みとなりました。

新たなページを刻む夕陽会の益々のご発展をご祈念するとともに、渡島支部はその一翼を担うため全力で取り組んでいきたいと思っています。



空知支部だより

空知支部長 佐々木 祐治

(昭和57年卒 岩見沢市立幌向小学校長)

平成二十九年度から支部長を仰せつかり、夕陽会本部や支部役員の皆様に支えられ、二年が経過しようとしています。

空知管内では全道的に進む人口減少の影響を強く受け、夕張市や歌志内市も含め、半数以上の十四市町で小中が一枚ずつとなっており、本校に保管している最古の「職員録」(昭和四十六年度版)を開くと、分教場を含め三百二十四(最多は、夕張市の三十一校)の小中学校があり、炭鉱が隆盛を極めていたことがわかります。四十七年後の今、その数は百九校まで減少し、更に今年四校、来年五校の閉校が決まっています。

夕陽会空知支部は、今年度、現職会員七十九名、OB会員三十六名の計百十五名で活動しております。北海道教育大学五校の中では、圧倒的な少人数ではありますが、個々の力を『夕陽会旗』の下に結集し、「変貌の激しい時代に生きる夕陽会並びに会員の活動指針としての『創造し行動する夕陽会』の意識を自覚し、個人と組織の力量を高める」ことを活動目的とし、日々研鑽を深めております。

四月の総会では、本部から藤川隆会長が遠路函館から岩見沢へ駆けつけてくださり、大学の様子や百周年の取組についてお話をいただきました。さらに、近年岩見沢でブレイクしている「地元ワイン」の無理な紹介にも気軽に応じてくださり、感謝申し上げます。

六月の「夕陽会創立百周年記念式典・祝賀会」には六名の会員が参加して学生時代の仲間と旧交を温めたり、久しぶりの函館を満喫しました。さらに、七月には北海道教育庁留萌教育局教育支援課長 青木順一様に御講演をいただき、今回の学習指導要領改訂のポイントと背景、そして社会に開かれた教育課程の実現に向けた今後の方向性を行政の立場からお話いただき、特に管理職が押さえておかなければならないことについて説明していただきました。

空知支部は、教育委員や二名の教育長を始めとするOB会員からの御助言を大切にしながら、教員以外の会員へのアプローチも含め、今後の活動を充実させていく所存です。今後も、会員相互の研鑽と交流の場として、充実と発展を目指して鋭意努力して参ります。



夕陽会の歴史

夕陽会小樽支部百周年

夕陽会小樽支部幹事長 若林 晋 (昭和63年卒)

平成三十年五月十二日(土) 小樽
ニュー三幸において、平成三十年度
北海道教育大学夕陽会小樽支部百周
年記念総会並びに祝賀会を開催いた
しました。例年、小樽支部では五月
に支部総会と懇親会を開催していま
す。当年度は、本部から藤川会長を
始め、多くの先輩会員と共に盛大に
開催できました。

小樽支部の歴史は、大正七年北海
道函館師範学校第一期卒「吉村庄
治」氏が小樽区堺尋常小学校に赴任
したところから始まります。そして、
百年の時を経て、夕陽会本部と同じ
平成三十年、百周年を迎えることが



祝賀会の終わりは恒例の寮歌

できました。

遡ること数年前の役員会での出来
事「本部百周年の時、小樽支部も百
周年、何かやろう」と話が持ち上が
りました。『例年の総会や懇親会を
百周年記念総会、祝賀会として開催
しよう』『本部百周年記念式典に合わ
せて、役員中心に支部長と一緒に函
館に行こう』『小樽支部記念誌を作ろ
う』など大まかな小樽支部百周年記
念事業を決め、少しずつ準備を重ね
ていきました。瞬く間に平成三十年
となり、本部の記念式典と祝賀会に
は、上泉哲支部長以下十名の役員全
員が参加できました。翌日の学食の
懐かしい味、夕陽記念館も見学し、
学生時代の思い出に花が咲いた二日
間となりました。

また、記念誌作成は、先輩会員に
原稿依頼をしたところ、多くの先輩
から玉稿を頂きました。手書きの原
稿をパソコンで打っていく中で、先
輩達の学生時代の思い出や夕陽会へ
の熱い思いがひしひしと伝わってき
ました。

「桐花寮での生活は、戦後の混乱
期で、特に食糧難の折、配給米では
足りず、イモやカボチャを混ぜた代

用食でした。大学の寮生活は貧し
く試験勉強でお腹がすくと、飯盒で
飯を炊き、おかずは醤油をかけた
生味噌をついたりして食べるので
す。宮前町の電停を降り、先輩達が笑
顔で迎えてくれてほっとした。お互
いの故郷から送ってくる食べ物に分
け、寮生活は楽しく過ごせた。当
時は「六十年安保反対」の一角で、
週末はデモ行進が当たり前でした。
寮では、よく語らい歌いました。寮
歌はみんな五番まできちんと歌詞を
歌い、その歌の精神が大好きでした。
「三十八年間の教員生活を勤め上げ
ることのできたその土台に、夕陽会
の先輩後輩の「同じ釜のメシを食っ
た」同窓意識が心の支えとして存在
していた。(先輩会員原稿より)
私も含め、今の学生には想像もつ



「本部百周年函館ツアー」夕陽記念館前にて



小樽支部100周年 記念DVD・記念誌



かないほど
苦勞の多い
学生生活を
送っていた
ことと思
います。

しかし、第一期生からの開学精神、
「土地墾闢」「人民蕃殖」が先輩会
員にも引き継がれ、函館の地から志
高く、全道の子どもの成長を支え
てきたことが感じられました。

夕陽会小樽支部は、会員数が減少
する中、夏・冬の研修会、若者の研
修会など「行動する夕陽会」の実践
充実を図っています。そして、新た
な百年へ歩み始めました。今後の小
樽の人口予測や函館校「国際地域学
科」の卒業生の就職先を考えてみて
も、北海道教育大学函館校を卒業し
た学生全てが夕陽会小樽支部会員と
して歩み続ける必要があります。ど
のような次代の小樽支部百年を歩む
のか、現在、そして未来の夕陽会小
樽支部会員の活躍を期待していきた
いと思います。

夕陽会の歴史

札幌支部創立九十周年を祝う事業から

夕陽会札幌支部幹事長 野村 幸明

(昭和58年卒)

大正七年に函館師範学校同窓会が創立して十年後、札幌にもその同窓が集い、昭和三年に札幌支部が誕生しました。当時は、まだ「夕陽会」という名称は使っておらず、初会合は定山溪で開かれました。

〓月日は流れ九十年後〓

平成三十年十二月八日、「夕陽会札幌支部創立九十周年を祝う会」を開催しました。

札幌支部は、約二年前から「夕陽会札幌支部創立九十周年記念事業」として計画を進めてきました。この時の資料には、事業のねらいがこう記されています。

夕陽会札幌支部創立九十周年を機に、当支部のこれまでの歴史を振り返ると共に会員相互の更なる結束と新たな飛躍を期するため、祝賀会(式典)を開催する。

夕陽会札幌支部の今後の更なる発展を願いつつも、創立八十周年のよう盛大に式典・祝賀会を実施していくことは難しいという資料も残さ



【ご来賓祝辞 藤川 隆本部長】

れておりました。しかし、十年後には創立百周年を迎えます。十年ごとの節目をお祝いしつつ百周年に向けての橋渡しを目指して、平成最後の十二月に式典・祝賀会としてではなく「祝う会」として札幌サンプラザで開催されました。

ご来賓は、夕陽会本部から藤川隆会長、青柳史匡副会長、白川卓幹理事長で、会を代表して藤川会長よりご祝辞をいただきました。

会の流れは、以下の通りです。

〓会次第〓

- 一 開会の辞
- 二 夕陽賛歌斉唱
- 三 式辞 本間雄一支部長
- 四 御来賓紹介
- 五 祝辞 藤川 隆会長
- 六 祝詞・祝電披露
- 七 祝杯 中瀬裕義本部参与
- 八 御歓談
- (夕陽会創立百周年記念DVD 夕陽会メモリアル上映)
- (工藤真嗣氏、堀 朋子氏、澤井雅樹氏三名のスピーチ)
- 九 寮歌合唱
- 十 乾杯 野田孝夫本部参与
- 二 閉会の辞

会の中で歌った夕陽賛歌・寮歌は、昭和二十三年〓六十年卒の六十五名による同窓の絆をさらに深めることができました。

また、歓談の最初に上映した夕陽会創立百周年記念DVDは、六月に行われた夕陽会本部百周年記念事業で上映されたもので、参加できなかった会員にとって、夕陽会の歴史を改めて認識するよい機会となりました。約六分間の上映でしたが、皆、映し出された映像を真剣に見ていました。

【本部ロゴと札幌支部のロゴ】



そして、会場には、札幌支部創立九十周年を記念して札幌支部のオリジナルロゴ、佐々木雅哉副幹事長の直筆の書で看板が掲げられました。

今回、札幌支部では、創立九十周年を記念して、もつともつと夕陽会札幌支部のことを知ってほしいという目的で、パンフレットも作成しました。表紙は、昭和五十一年卒の菅原清貴氏のイラストで、夕陽会の温かな人間模様が醸し出されています。

【札幌支部九十周年パンフレット】



札幌支部が創立九十年を迎えた今、改めて「創造し、行動する夕陽会」であることを意識して、創立百周年に向けて新たな夕陽会の活動を進めていきたいと考えています。

百周年の夜に 「獅子(四四)の会」の絆

西谷 文子
(昭和44年卒)

夢と希望に向かい、大海に船を漕ぎ始めた昭和四十四年三月。教育現場のさまざまな過渡期を渡り歩いてきた力強い仲間たち。

私たちは北海道学芸大学における最後の入学生であり、旧校舎二年と新校舎二年という四年間を経験した世代です。入学時、当時の正門から校舎を望んだ時に見えた真正面部分が、現在の夕陽記念館。貴重なレガシーとして記憶に残ります。

第一回同期会は昭和五十五年。近代国家樹立という志を掲げて、幕末から明治にかけての激動の時代を描いた、時の大河ドラマ「獅子の時代」に相まってその名をいただきました。ともに苦勞した仲間が故人となったのは、すでに十八名を数えます。

百周年を迎えた夕陽会。それに呼応する「獅子の会」は卒業五十周年。今回で十六回となる同期会には全国から十八名が集まり、夕陽会創立百周年祝賀会に引き続き、函館駅前「雅家」を会場に行いました。

「お互いに思いを込めて集う今日」
夕陽会がさらに充実
これは、東京・奈良氏が詠んだ短



歌です。東京、稚内、札幌、江別、苫小牧そして地元の面々が集合。五十年ぶりという仲間もいます。

司会は安保氏、挨拶は小岩氏。稚内・間瀬氏の祝杯で会は始まり、学生時代のこと、健康の話、今の生活やこれからのことを語り合い、楽しい時間はあっという間に過ぎました。締め乾杯は札幌・横山氏。数年後また札幌で元気に会おうと約束してお開きとなりました。

流れる月日は奇跡のようで、生かされて今があることを実感。その絆に感謝！

数学科同窓会

「三橋功一教授ご勇退感謝の会」「総会」のご報告

平成三十年十一月十日(土) ホテル法華クラブ函館にて、数学科同窓会「三橋功一教授ご勇退感謝の会」並びに「総会」を開催いたしました。午後五時より総会を開催し、伊藤皓嗣会長の挨拶のあと、協議に入りました。五十嵐幹事長より、母校函館校に「数学科」がなくなった現在、数学科の免許を取得した同窓生に会員組織を広げることや、役員の改選が提案され、全会一致にて承認されました。母校では、地域協働専攻のうちの地域環境科学グループの学生が数学科の免許を取得可能であり、今後も



ご勇退感謝の会 記念写真

入会の呼びかけを行っていくことが確認されました。

総会に引き続き、午後六時より「三橋功一教授ご勇退感謝の会」を開催いたしました。藤川隆夕陽会会長、池田正母校教官のご臨席のもと、たいへん和やかで、温かな、感謝の会になりました。会は冬野恒史新幹事長の司会で進行され、三橋功一先生の入場に幕を開けました。三橋功一先生のご挨拶では、本会開催への感謝と、母校にて教鞭をとられていた頃の思い出が語られ、参会者皆でお祝いを申し上げました。また、本会小山昌吾顧問の祝杯のご挨拶では、同窓の絆をより一層強め、互いに研鑽していこうと呼びかけがあり、気持を新たにしたいところでした。各年代の代表からのテーブルスピーチも行われ、懐かしいエピソードに笑いと拍手が沸き起こりました。三橋功一先生の授業づくりや教材研究、函館市小学校算数教育研究会や函館市中学校数学科教育研究会でのご活躍が語られるひとときでした。話題は尽きることがなく、参会者の笑顔溢れる素晴らしい会になりました。

数学科同窓会新役員

- ・会長 伊藤 皓嗣
- ・副会長 風間 和夫
- ・副会長 奥崎 敏之
- ・副会長 福井 博志
- ・副会長 五十嵐 義幸
- ・副会長 足立 雅行
- ・幹事長 木村 理希
- ・幹事長 冬野 恒史
- ・常任幹事 神野 藤 均
- ・常任幹事 木村 奈々
- ・名誉顧問 中村 絃司
- ・顧問 小山 昌吾

(文責 平成元年卒 五十嵐義幸)



夕陽会の 新しい歴史を築く(1) 若手会員の活躍と育成

「会員名簿」の発行をもって、夕陽会創立百周年記念事業の全てを終えることができました。ご支援、ご協力をいただいた会員各位に感謝を申し上げます。

さて、本年の五月一日には新元号となり、新しい時代が始まります。夕陽会も、一世紀にわたる長い歴史や伝統を確かに継承するとともに、時代や母校の状況に応じて新しい歴史を築いていかなければなりません。そこで、「夕陽会の新しい歴史を築く」と題して、次代を見据えた各支部の様々な取組をシリーズで紹介することにしました。

ご承知のように、本部会報の中で「支部だより」として、各支部の活動状況などを定期的に掲載してきました。このことに加えて、各回のテーマに即した支部活動の工夫を紹介いたします。初回のテーマは、「若手会員の活躍と育成」です。

次代を担う若手会員の活躍の場を設け、これまでの支部の歴史や伝統も伝えながら、新しい夕陽会をつくる人材を育成しようとする「帯広十勝支部」の工夫をまとめてもらいました。
(本部事務局・情宣部)

若手会員の参画のために

夕陽会帯広十勝支部巴湾会幹事長 原 見 寿 史
(昭和58年卒)

夕陽会帯広十勝支部巴湾会は、平成二十三年度に帯広市内の「夕陽会」と十勝管内の「巴湾会」が統合となり、現在の名称となりました。「出会い」と「つながり」を会の合言葉に活動を進めているところです。

今年度は、現役会員が一四八名、OB会員が七九名、合計二二七名の会員数となっていますが、世代別で表すと、五〇歳以上が三四%、四〇～四九歳が三一%、三〇～三九歳が二九%、二九歳以下が六%となっています。このことからわかるように、二〇歳代の若者の割合が少なく、それに伴って全体の会員数も年々減少傾向にあります。

そして、役員体制の中で要職を担っている管理職の数も年々少なくなっていることとあわせて、今後の会の組織づくりや運営に大変危機感をもっているところです。

こうした実態の中、数年前から会の重点課題に「若手会員の参画と人材育成」を掲げ、様々な方策に取り組んでいるところです。

今回は、その取組の一端を紹介させていただきます。

一、若手会員の参加を広げるために
本会は主な活動として、総会・懇親会(五月)、方面交流会(七～八月)、

道東ブロック会議(十一月、四地区持ち回りでの開催)、二〇～四〇歳世代で構成するⅡ部会とⅢ部会の合同交流会(十二月)、新春研修会(一月)を行っています。これらの活動への若手会員の参加を広げるために、次のような手立てを進めています。

- ・ 会員からの会費を還元するという意味から、特に二〇～三〇代の会員には参加費の一部を助成するというシステムをつくっています。
- ・ 校長・教頭が個別に電話等で参加の声掛けに積極的にあたっています。
- ・ 参加した若手会員と積極的にコミュニケーションを

図り、参加しやすい雰囲気づくりに努めています。

以前は、管理職中心だった活動にも少しずつではあります。が若い風が入り始めて、活気のある活動に変わりつつあると感じています。

二、若手会員の活躍の場を創るために
これからの会を担っていく若い会員の資質を高め、会の



運営に積極的に参画していく意識を育てていくために、次のような取組も進めています。

- ・ 新春研修会では、二～三名の若手・中堅からの提言発表の場をつくり、その実践から互いに学び合う機会としています。

- ・ 今年度初めて、総会後の懇親会および道東ブロック会議の懇親交流会ではⅡ・Ⅲ部会による余興を取り入れました。

とりわけ余興では、「おらが街『函館』」と題して、クイズ形式のプレゼンを制作したり、直接函館で調達した景品を用意したりするなど、大変趣向を凝らし、学生時代を懐かしく思い起こさせてくれる見事な余興を披露してくれました。

以上、具体的な取組について紹介させていただきます。

今、会は若手会員の活躍とともに少しずつ変容してきています。しかし、これをより確かなものにするには、若手会員にとって同窓がより身近な存在になるように、より魅力ある場となるようにさらなる工夫と改善が必要です。若手が真に同窓会に主体的にかかわっていく姿を目指していきたいと考えています。

若手・中堅会員の活躍

社会人になって

(平成30年卒 ㈱日本旅行北海道函館支店)

多田 龍平

昨年の三月、北海道教育大学函館校国際地域学科の地域政策グループを卒業し、四月より株式会社日本旅行北海道函館支店に勤務をしてから、早いもので一年が経とうとしています。大学時代、旅行会社に対するイメージは、お客様へご旅行をご提案し、そのお客様と一緒に添乗員として同行するという漠然としたものでした。しかし、実際に勤めてみると、旅行先の知識、飛行機・JR等の交通機関の情報、また円滑な旅行実施のためには各関係機関への手配・打ち合わせを入念に行わなければ旅行というものは成り立たないということを実感いたしました。入社して間もない自分は、社会人になる前と違った後で、旅行業に対してのイメージががらりと変わったのを覚えています。

実は、その現実には自分の気持ちに負けていては営業マンとして失格です。とにかく担当している学校や企業に関しては少しでも顔を覚えてもらえるように足を運ぶしかないと感じています。現在はまだまだ大きな形として結果を出せてはいませんが、学校の先生方や企業の方々から少しずつですがご旅行のお話をいただけるようになつてきました。私はそのご縁を大切に、いつか自分のお客様に満足していただけるご旅行をご提案できる営業マンになりたいと思っています。私がこれからも社会人として働いていく中で、身につけなければならないことはたくさんあると思っています。現在なかなかご旅行のお手伝いのお話がなく、まったく先の見えない中、結果を残していかなければならないという不安もあります。しかし、社会人になって間もない今だからこそ、がむしゃらに目の前の課題に向かつていくしかないと思っております。それが一年後や二年後に実を結ぶと信じています。まだまだ至らない点が多々ある自分ですが、会社の先輩方やお客様との関係を築く中で成長し、少しでも皆様に喜びで満ち溢れるご旅行を提案できるよう、日々精進してまいります。

初心を忘れずに

(平成30年卒 北海道帯広養護学校教諭)

水見 野乃香

社会人になり、約十ヶ月が経ちました。四月からの生活を振り返ると、ずいぶん昔のことのように感じるのと同様に、あつという間に過ぎていった十ヶ月であつたとも感じます。大学入学を機に初めて地元を離れ、四年間を過ごした函館市は、今となつては第二の故郷のように思えます。

そんな思い出がたくさん詰まった函館市を離れ、現在は新たな土地である帯広市で暮らしています。働きながらの新しい生活は、想像以上に大変でしたが、家族や大学からの友人、職場の方々を支えられ、この一年で徐々に帯広市での生活に慣れてきました。

私は現在、中学生の頃からの夢であつた特別支援学校の教員として働いています。初任者として勉強の毎日であり、まだ未熟である私にとっては、何もかもが貴重な経験となつています。また、子ども一人一人の実態に応じた指導や分掌等の業務も、一つ一つ丁寧に業務内容を確認すること、できる業務が増えてきているように感じています。

けれども仕事をやる中では、辛いことや自分の無力さを感じることも多くあります。そんな時、職場の方々の温かなフォローや、初任者の仲間たちの明るさにとっても支えられ

ているように思います。そして何より、子どもたちの素直さや優しさ、笑顔が私の活力になっています。

私は、そんな子どもたちに何ができるのか、教員としてやるべきことは何なのか：まだはつきりとした考えは見えてきていません。しかし、大学時代に障害があつてもいきいきと過ごしている方々の生活の一部の時間を共にしたことで、子どもたちに将来それぞれ自立した生活を送り、楽しく笑顔で過ごしていけるようになってほしいと思えたことが、今の仕事の軸となっています。だからこそ、子どもたちが学校生活を送っていく中で、自分から「やりたい!」や「わかった!」と思えるような指導を行っていきたくと思っています。今後は、大学で得た知識を生かしながらも、新しいことを吸収し学び続けていきたいと思っています。また、教育実習やボランティア活動を通して得た経験や思いは、私にとって貴重なものであると感じています。その思いを胸に刻み、特別支援学校教諭として精進していきます。今の私を育ててくれた大学や家族、日々支えてくれる友人や職場の方々への感謝を忘れず、今後もより一層子どもたちと共に、楽しみながら努力し、成長していきます。

大学生活で得たもの

高橋 諒 平

(平成29年卒 北海道教育庁釧路教育局)

社会人になり、もうすぐ二年が経とうとしています。就職してから大きな病気や怪我がなく、ひとまず安心しています。仕事につきましては、未熟な部分がまだまだありますが、職場の方々のお力添えもあり、着実に力を付けている自覚があります。

私は現在、北海道教育庁釧路教育局で勤務しており、教育支援課教育支援係に所属しています。業務分野が義務教育、高校教育、特別支援教育、社会教育、学校給食など、多岐にわたっていることから、業務内容を一言で表すのは難しいのですが、指導系の行政職員である指導主事の事業運営に係るサポートや補助金関係の事務、事業の予算管理等を主な業務としています。学生時代に少々教育について学ばせていただきましたが、財政の詳しい仕組みや教育行政に関わる法令などは勉強不足の領域が多く、日々圧倒されているとともに、日常的に新たな知識が得られる現在の職場を大変ありがたく感じています。

私が教育行政職員を目指すきっかけは、学生時代に所属していたスポーツ北海道という団体での活動経験からです。スポーツ北海道は、学生が主体となって運営する総合型地域スポーツクラブで、地域の活性化を目的として地域にスポーツの楽し

さや豊かさを伝える活動をする団体です。主に地域の方々を対象としたスポーツ遊びの教室を行っています。私は教室での運営スタッフであつたと同時に、役員として同団体の運営に携わっていました。その際に、実際に現場で活動をするやりがいを感じていた一方で、現場をサポートするということについてもやりがいを感じたのです。この経験から、教育現場を支える職業を志しました。

就職して改めて、現在の仕事は現場の教員を支える仕事だと感じています。業務のほとんどは、いわゆる「現場の見えない仕事」ですが、当たり前前のことをいかに完璧にこなす、なおかつどう改善していくかという点にやりがいを見出し、日頃の業務に当たっています。今後も現場を意識しながら、業務改善を念頭に置き、業務に専念していきたいと思っています。私は北海道教育大学函館校で多くのことを学び、経験させていただきました。前述しましたように、現在の職に就くきっかけや仕事に対するやりがいも学生生活から得られたものです。私を成長させてくださった母校、そして北海道という地域に対して、少しでも恩返しができるよう、今後も日々精進していきたいと思っています。

今できることを今やり続ける

佐藤 秀 斗

(平成16年卒 増毛町立増毛小学校教諭)

大学四年間、時間講師一年間、私は函館で過ごしました。採用試験に合格し、生まれ育った留萌管内に戻ってきました。早いもので函館を離れて十四年経ちますが、函館で過ごした五年間は昨日のように感じます。それは今、仕事や生活をしている中で、何か考えたり、行動を起したりするときに必ず函館での記憶や経験が役に立ち、頭の中で思い出しているからだと思っています。

数学推薦で入学したのに気付けば理科専攻。仲間と白衣姿で気合を入れて実験室に向かったあの日々。高校のときに学んだはずの勉強をもう一度学び直す日々。気付けば理科の虜に。学ぶ楽しさを肌で感じ、それを子どもたちに伝えたいと心から思えるようになりました。

小学校から続けていたサッカー。もっと上手になりたいとサッカー部に入部した初日にギックリ腰。見学とリハビリから始まったあの日々。練習内容を一から考え、公式戦などの申し込みや遠征時のホテルの予約、相手チームとの調整をすべて自分達で行ったあの日々。サッカーを通して、自主的に考え行動することに楽しさを覚え、それを子どもたちに体験させてあげたいと思えるようになりました。

当時は、今まで経験してきたことが、どれだけ局所的で小さなこと

だったかを思い知らされるとともに、それでも自分がその中でどう生きていくかを考え続ける毎日でした。

数年前から夕陽会留萌支部の幹事を務めさせていただいております。これまで支部長会議や上川・留萌・宗谷の三支部交流会などたくさんさんの経験をさせていただきました。留萌管内は最北の天塩町から最南の増毛町まで縦に約百三十kmあり、気軽に集まるのが困難です。さらに少子化の影響を受け、ここ数年で学校数が激減し、留萌市以外のほとんどの町や村に小学校と中学校が一つずつしかない状態になってしまいました。そのような中、留萌支部は総会、勉強会、年度末交流会と年三回集まる機会を設けています。全員の出席は難しい状況ですが、毎回、年代を超えていろいろな話題が飛び交っています。大学時代の話、最近の教育情勢、仕事での悩みなど何でも話すことができます。アットホームな雰囲気がある留萌支部らしさです。そんな留萌支部の合言葉は「できることを続けていこう!」です。これは諸先輩方が今までも大切にしてきた言葉です。これからも背伸びせず、今できることを一つ一つ大切に、夕陽の光を留萌の地に灯し続けていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

函館校のキャリアセンターと

学生の就職状況

北海道教育大学キャリアセンター函館校センター長 根本直樹

平成三十年三月に卒業した学生の進路状況を紹介します。函館校全体の進路別の割合は、民間企業への就職率が五四％と最も高く、次いで、教員が一九％、官公庁などの公務員が一五％という状況になっています。専攻別では、『地域協働専攻』の「国際協働グループ」、「地域政策グループ」及び「地域環境科学グループ」のいずれも民間企業への就職率が高く、航空や海運、鉄道などの運輸業、銀行や証券、保険などの金融・保険業をはじめ、情報通信業、卸売・小売業、不動産業、医療・福祉など、様々な業種の企業へ就職しています。

一方、『地域教育専攻』は、五〇％以上が道内外の小学校などに就職しています。また、各専攻とも、官公庁などの公務員を目指す学生が多いことも特徴の一つとなっています。財務省の函館税関、青森県庁や岩手県庁、北海道庁、岩手県警や神奈川県警、北海道警察をはじめ、札幌市や函館市、岩見沢市など道内の市役所のほか、東金市や上山市など道外の市役所などにも多くの学生が採用されています。

これらの就職状況を数字からみると、下図のような数値を確認できます。学科総計での就職率は正規・臨時含めて九六％と好調でした。特に公務員に関しては総計で九七・五％との高い数字を残しています。地域教育専攻の教員の合格率は臨採も含めると九六・六％と高い数字です。

最近の就職地の傾向は、道内では札幌に集中する傾向があります。函館出身の学生も地元に残るケースは少ないです。しかし、例外があります。公務員においては、北海道庁と函館市役所を併願して地元を優先するケースが多いです。北東北地方出身の学生は地元志向が強いのですが、業種的には狭い選択に置かれているような気がします。昨年の秋に秋田と盛岡で地元企業と大学との面談をする機会がありました。地方の企業が世界を相手に頑張っている姿を学生にも紹介したいと思っているところです。本校の学科理念と符合していると感じました。

就職先の民間企業について少し紹介したいと思います。昨年度の九月に二回に分けて札幌に内定のお礼も兼ねて企業訪問をしました。その訪問先は、ANA新千歳空港、近畿日

本ツーリスト北海道、ホクレン、日本生命、国分北海道、北海道労働金庫、DCMホームマック、三井不動産リアルティ札幌、マイナビ、日本通運札幌支店、東日本フーズ、JR北海道、サッポロドラッグストアー、HIS、北海道漁業協同組合連合会、北洋銀行、北海道新聞社、コープサッポロ、東京海上日動火災保険、ホクヤク・竹山ホールディングスなどです。訪問先で、学生の評価が高いこととびつくりすることもありました。

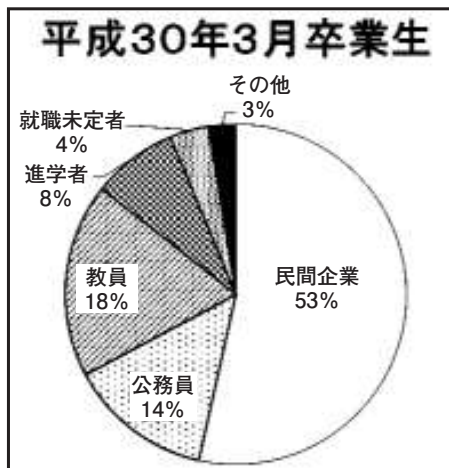
キャリアセンターは、学生と就職先との接点を支援する役割を、キャリア開発科目などの授業や企業・官庁説明会の開催などによって果たしています。もちろん、日常的な相談業務が大切であることも言うまでもありません。大学におけるキャリア教育の大切さを痛感しています。特にインターンシップの有用性を感じています。先日、教員志望の学生に対する道教委からの説明会の席で、民間のインターンシップへの参加を勧めました。どの業種であろうが社会人としての経験が大切であろうと思ったからです。世界的な教育環境を考える際に、シティズンシップ教育の大切さをよく目にします。学生の職業志向を大切にするのはもちろんですが、人間力をその前に育成することもキャリア教育にとっての課題であると思っています。

平成30年5月1日現在

(表1)

| 対象者数 | 民間志望 | | | 公務員志望 | | | 教員志望 | | | 就職率 | | |
|------|---------------|------|-----|---------------|------|----|---------------|-------|----|---------------|------|-----|
| | 就職者 | | 計 | 就職者 | | 計 | 就職者 | | 計 | 就職者 | | 計 |
| | 正規 | 臨時 | | 正規 | 臨時 | | 正規 | 臨時 | | 正規 | 臨時 | |
| 273 | 147 | 8 | 155 | 39 | 1 | 40 | 51 | 1 | 52 | 237 | 10 | 247 |
| | 144 | 3 | | 39 | 0 | | 33 | 18 | | 216 | 21 | |
| 就職率 | 94.8% (95.7%) | | | 97.5% (79.5%) | | | 98.1% (90.0%) | | | 96.0% (90.2%) | | |
| 正規 | 92.9% | 1.9% | | 97.5% | 0.0% | | 63.5% | 34.6% | | 87.4% | 8.5% | |
| 臨時 | | | | | | | | | | | | |

※ () 内は昨年度の実績



平成30年度 夕陽会研修助成先一覧

(H31. 2. 11現在)

- 1 夕陽会札幌支部会員研修会 (ミドルリーダー対象)
- 2 夕陽会小樽支部夏季研修会
- 3 第73回北海道国語教育研究大会函館大会
- 4 夕陽会空知支部「教育講演会」
- 5 夕陽会札幌支部第2回教師力UPセミナー
- 6 平成30年度 夕陽会小樽支部若者の集い (若手枠研究助成)
- 7 松前町立松城小学校研究発表会
- 8 北海道教育大学夕陽会特別支援学校支部研修会
- 9 夕陽会石狩支部ふれあいトーク (若手枠研究助成)
- 10 平成30年度 第62回渡島複式教育研究大会松前・福島・知内・北斗大会
- 11 夕陽会小樽支部冬季研修会
- 12 北海道教育大学附属函館小学校平成30年度教育研究大会
- 13 夕陽会上川支部地区研修会&交流会
- 14 夕陽会上川支部会員研修会・体罰根絶研修会 (若手枠研究助成)

(研修部長 函館市立万年橋小学校 吉田 敬三)

会務報告

幹事長
白川 卓
(平成5年卒)

《一般会務》

7/13 夕陽フォーラムを函館校において開催

7/28 夕陽会明日の教師塾を附属小にて開催

8/18 鶴陵会渡島支部30周年祝賀会に藤川会長が出席

9/15 五校同窓会長会議に藤川会長が出席
(函館市)
(有見沢市)

10/4 第1回名簿作成委員会を附属函館小にて開催

10/11 大学本部と藤川会長、白川幹事長が協議
(函館市)

10/30 第1回本部役員会を附属函館小にて開催

11/28 100周年実行委員会(最終)を附属函館小にて開催

11/29 会社員及び公務員の集いを開催
(函館市)

12/8 第2回名簿作成委員会を附属函館小にて開催

12/10 札幌支部創立90周年を祝う会に藤川会長、白川幹事長が出席
(札幌市)

12/12 五校同窓会長と蛇穴学長との懇談会に藤川会長が出席
(札幌市)

2/3 函館校地域プロジェクト成果発表会に藤川会長が出席
(函館市)

2/5 五校同窓会長と道教育長との懇談会に藤川会長が出席
(札幌市)

6/29 《支部総会・懇親会・同期会等》

7/6 渡島支部鹿部支会総会・懇親会に藤川会長が出席

7/7 渡島支部知内支会総会・懇親会に五十嵐副幹事長が出席

7/10 渡島支部七飯支会総会・懇親会に藤川会長、白川幹事長が出席

7/10 渡島支部北斗支会総会・懇親会に藤川会長が出席

7/10 渡島支部福島支会総会・懇親会に天野副会長が出席

7/12 渡島支部森支会総会・懇親会に藤川会長が出席

7/13 渡島支部第1回支会長・幹事会議に藤川会長が出席

7/19 渡島支部木古内支会総会・懇親会に藤川会長が出席

9/22 長万部支会総会に天野副会長が出席

9/22 指導主事等会学習会に藤川会長、白川幹事長が出席
(札幌市)

9/28 高等学校支部総会・懇親会に島津副会長が出席
(函館市)

9/28 母校小田先生歓迎会・内藤先生還暦祝いの会に藤川会長、五十嵐副幹事長が出席
(函館市)

10/6 海峽クラブ懇親会に藤川会長が出席
(函館市)

10/13 道央ブロック会議(小樽市)に藤川会長が出席

10/13 道東ブロック会議(音更町)に藤川会長が出席

11/3 函館渡島北師同窓会懇親会に白川幹事長が出席
(函館市)

11/10 数学科勇退者感謝の会に藤川会長が出席
(函館市)

11/23 道南地区六稜会懇親会に白川幹事長が出席
(函館市)

11/23 道北ブロック三支部交流会(稚内市)に藤川会長が出席

1/5 特別支援学校支部学習会・懇親会に藤川会長が出席
(札幌市)

1/19 後志夕陽会勇退者感謝の会大懇親会に藤川会長が出席
(余市町)

1/26 青森西北五支部総会・懇親会に太田副幹事長が出席
(五所川原市)

2/9 胆振夕陽懇親会に藤川会長が出席
(室蘭市)

2/9 渡島支部第2回支会長・幹事長会議、勇退者感謝の会に藤川会長、白川幹事長が出席
(函館市)

2/16 日高支部総会・懇親会に五十嵐副幹事長が出席
(新ひだか町)

2/16 函館市支部受賞祝賀会・懇親会に藤川会長が出席
(平成三十一年二月二十八日現在)

前納会費納入会員名簿追加分

福井 伸一 鹿部 昭57

(敬称略 平成三十一年一月七日現在)

夕陽会員計報

橋本 廣氏 昭28 28・3・25

札幌市豊平区福住1条3丁目14の11

泉 總一氏 昭30 29・11・1

札幌市手稲区曙9の1の16 順子氏

中山 猛氏 昭25 30・1・3

函館市山の手1の1の10アシスト函館ビルズB201純子氏

八反田 亮氏 昭20 30・2・3

札幌市北区太平6の5の1の19 智津子氏

永井 俊明氏 昭39 30・2・19

八戸市大字新井田字丑鞍森23の24 美和子氏

川嶋 忠雄氏 昭24 30・3・8

札幌市西区西野7の6の2の7 玉江氏

問谷 昌司氏 昭22 30・3・18

岩見沢市幌向南3の4の289の41 民子氏

小原 武直氏 昭35 30・4・4

新ひだか町静内中野町3の52の24 玲子氏

上島 康信氏 昭33 30・5・18

函館市五稜郭町24の16 富子氏

加藤こずえ氏 平10 30・6・19

函館市白尻町111 父勝男氏

小川 茂氏 昭28 30・6・21

函館市日吉町1の2の4 長男 文宏氏

岩尾 正夫氏 昭43 30・6・21

小樽市星野町9の27 かほる氏

宮下 順次氏 昭29 30・8・14

七飯町大川8の9の7 武子氏

横内 美嗣氏 昭32 30・8・21

函館市桔梗5の11の1 昌子氏

野口 正充氏 昭28 30・9・1

北広島市大曲南ヶ丘2の11の13 美佐子氏

前川 一郎氏 昭31 30・10・6

木古内町字木古内207の114 直美氏

山本 益夫氏 昭35 30・10・28

函館市日吉町4の9の31 久美子氏

細畑 清吉氏 昭18 30・11・24

札幌市手稲区星置3の6の11の1

西山 隆裕氏 昭33 30・12・28

函館市花園町3の27 薫氏

登坂 泰夫氏 昭24 30・11・9

室蘭市宮の森町2の13の33 長男 恭之氏

寺西 宣雄氏 昭37 30・11・13

札幌市中央区北5東2の1707 長女 田口由希氏

堀 東海雄氏 昭40 30・11・23

札幌市北区北24西12の1の7の115 由紀子氏

吉田 成子氏 昭42 30・11・23

小樽市新光3の11の710 良輝氏

富田 久雄氏 昭12 30・11・23

苦小牧市青雲町2の9の12 弘雄氏

田口 純子氏 昭33 31・1・19

函館市湯川町1の15の10の203 明氏

齋藤 盛氏 昭34 31・1・19

東京都千代田区外神田4の14の2の2903 長女 荒井令子氏

千葉 喜彦(軒岳)氏 昭34 31・2・8

函館市東山2の5の4 節子氏

手塚 弘氏 昭38 31・2・22

函館市東山2の30の13 美智子氏

(平成三十一年二月二十八日現在)

北海道教育大学基金について

過日、北海道教育大学長から、五校同窓会に「大学基金」への寄附の依頼がありました。各校の同窓会長で協議し、次の二点について確認しました。

(一) 各同窓会の財政状況を踏まえ、同窓会として一定の金額をまとめて寄附することはせず、会員個々の対応とする。

(二) 大学本部が作成した寄附に関する依頼文書等の会員への送付については協力する。

そこで、「大学基金のご案内」とご協力をお願いのパンフレットを本部会報と一緒にお届けします。基金の目的や使用内容等を確認いただき、母校や後輩たちのためにぜひご協力をお願いします。

なお、以前から協力をお願いしていましたが、『函館校地域協働・国際化推進事業』への寄附については、大学基金に一本化され、その中で「キャンパス指定の特定事業」「函館校」を選択していただくことで同様に活用されます。詳しくは、パンフレットをご覧ください。「大学基金」についての問合せは、パンフレットに記載されているように大学本部の総務課をお願いします。(本部事務局)

編集後記

◆夕陽会報二二六号をお届けいたします。発行にあたり、多くの皆様から、夕陽会に対する熱い思いに添った玉稿とお写真をお寄せいただき、心よりお礼申し上げます。

◆今号の巻頭写真は、今年一月に、百五十年の歴史に幕を閉じた函館駅前のランドマーク「棒二森屋」を背景に走る市電です。

◆函館市民にとっては、物心ついたときからそこにあつて当たり前、一人ひとりの心に、なにがしかの想い出がある「棒二さん」でしたが、多くの方々から惜しまれつつ、閉店いたしました。

◆そして、まもなく「平成」の時代も終わりを告げようとしています。今号は、平成最後の会報となりました。しかし、終わりがあれば、始まりがある。我が夕陽会も、母校の次なる百年への歩みとともに、新たな歴史を創造するとの気概を持って歩み続けます。それに伴い、会報も少しずつ内容を工夫しております。引き続き、ご愛読ください。

(情宣部長 檜野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138)46-2235

夕陽会専用(0138)34-5520

FAX番号(0138)47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)